

2021年5月13日
シチズン時計株式会社

2020年度通期決算説明会 主な質疑応答（要旨）

日時 : 2021年5月13日（木）16時00分～17時00分

当社出席者： 代表取締役社長 佐藤敏彦、取締役 古川敏之、取締役 大治良高

主な質疑応答：

【全体】

- Q) 特に利益面で事業全体における工作機械事業の割合が高まっているが、今後の事業ポートフォリオについてどう考えているか。
- A) これまで通り、時計事業と工作機械事業をコア事業としていく。長期的により成長が見込める事業は工作機械事業。時計事業は大きな売り上げ拡大は見込みづらい中で、着実に利益を出せる体質づくりを進めていく。

【時計事業】

- Q) 機械式時計の新製品を発表したが、時計事業の今後の注力領域をどう考えているか。
- A) 強みを持つ中価格帯時計を中核に据えていく戦略に変更はない。国内市場では、xCやATTESAなどの中価格帯時計が好調。機械式高級時計 The CITIZEN や、機械式ブランド Series 8 を発表した。コア技術であるエコ・ドライブを搭載したアナログクォーツ時計のほかに、機械式時計という選択肢も加え、商品ラインナップを広げていく。
- Q) 時計事業の2020年度第4四半期営業利益は▲43億円と前年並みだったが、ムーブメントにおける構造改革等の実施があっても損益改善は進まなかったのか。
- A) ムーブメント及び完成品在庫の処分、評価減を実施したことから15億円程度の一時的な費用が発生した。この費用処理を除くと、損益は改善している。
- Q) 2021年度は前年比3割増の見通しだが、主な増収要因は何か。
- A) 完成品は主力市場である北米市場が好調に推移している。ワクチン接種の進展もあり足元は大きく売り上げを伸ばしている状況。さらに中国の伸びも見込まれている。ムーブメントも需要は回復傾向にあり、在庫についても適正水準になっている。

【工作機械事業】

Q) 工作機械の受注状況について。2021年度の見方はどうか。

A) 2020年度第4四半期は2017年度・2018年度にあったピーク時に近い水準で推移している。足元の受注も順調に推移しており、旺盛な受注環境が継続する見通し。昨年からは中国の受注拡大が続いているが、今年に入って欧州等の先進国からの受注も増加しているため、製品ミックスも改善していこう。

Q) 受注拡大が続きそうだが、上昇トレンドはどの程度続くと見ているか。

A) これまでの工作機械市場のサイクルでは、上昇に転じてから2年程度は上昇トレンドが続くので、今回も同程度の期間は続くと見ている。受注拡大とともに、リードタイムの長期化、部品調達の不安定さも出ており、どこまで出荷していけるかが重要と考えている。

以 上